

世界のバナナ市場

FreshPlaza 2023年9月15日

今年は世界市場全体でバナナに関して困難な季節であったが、一部の国では見通しが上向きになっている。オランダのバナナ市場は控えめな夏の後、価格の上昇と安定した供給により回復している。一方ドイツでは需要が弱いと言われ、時折供給過剰により値下げが必要なものの、安定した販売を維持している。イタリアでは極端な低価格で、特に最小限の利益に苦しむバナナ熟成業者に影響を及ぼしている。一方、スペインでは火山の噴火の後でバナナ生産のバランスを回復し、価格が安定して、国内生産が増加している。

南アフリカでは、天候関連の課題によりバナナの供給が少なく、価格が大幅に上昇している。インドでは、降雨量の不足と品質の問題が、今後のバナナの出荷量と出回り量に不確実性を投げかけている。一方、中国では台風被害による国内生産への影響と輸入先の移行が生じており、北米はバナナの供給量の増加に備えているが、小売業者が変化する市場の動向に適応するのにつれて価格低下の圧力が高まっている。世界有数のバナナ輸出国であるエクアドルは、出荷量の変動、輸送運賃の低下及び米国への有機バナナの輸出の増加に牽引されて、輸出が増加している。さらに、同国のバナナ産業は麻薬取引に関連する保安上の脅威に取り組んでおり、世界的な輸出国の地位を守るための保安対策に多額の投資を行っている。

オランダ：市場は控えめな夏のセールの後に持ち直し

やや控えめな夏のセールの後、バナナ市場は現在持ち直している。オランダのある輸入業者は、「熟したバナナの日々の取引価格は、現在14～17ユーロの水準に上昇している。しかし、悪い時期もあった」と言う。今のところ、パナマ運河での遅延はバナナの供給にほとんど影響を与えていない。この業者は、「現在、エクアドルは出荷量が少ない。ほとんどのバナナはコスタリカ、コロンビア、グアテマラなど大西洋側の国から来ているので問題ない。しかし、現在、大型の船舶を運河の前で長く待たせるという話もあり、この脅威は市場に影響している」と言う。小売業者への安定した販売に加えて、外食産業はバナナの成長市場である。

ドイツ：強い需要はない

ドイツ市場でのバナナの需要は最近特に強いということはない。引き合いは、何の努力もせず簡単に対応することができた。ほとんどの場合、取引業者が少ない需要に供給を合わせたため、安定した販売状況をもたらした。時として供給が多すぎ、在庫の増加を避けるためには値下げが必要であった。これは主に、2番手、3番手のブランドに関係した話であったが、ミュンヘン市場ではすべての商品が影響を受けた。全般的な価格は依然として昨年水準をわずかに上回っている。

イタリア：熟成業者の利益なし

最大規模の熟成施設の1つを有するイタリア北部の業者によると、イタリアのバナナ市場では価格が非常に低い。収益の出る価格は少なくとも13～16ユーロ/箱であるが、ここ数週間のブランドのないバナナの平均価格は9～12ユーロ/箱の間で変動している。これではコストが収益を上回るため、現在バナナ熟成業者は利益が出ず、大きな問題となっている。来週の学校の新学期に伴い、消費が増加し、価格が上がることを期待されている。現在のイタリアの天候は役に立たない：気温は30～34℃で、消費者はバナナよりもスイカ、メロン、モモ等の果実を買う傾向にある。

スペイン：バナナ市場のバランスが回復

ラ・パルマ島では、2021年の火山の噴火で影響を受けたバナナ生産力が回復した。カナリア諸島の出荷量は2022年に15%減少した。昨年は、このセクターの価格については本当に異例であった。火山噴火によって供給量が不足して価格が上昇し、輸入バナナがスペインで市場シェアを獲得することを許した。しかし、2023年には、最初の数か月間の輸入バナナの価格上昇と国内のバナナ生産の増加により、再び国産バナナと輸入バナナのバランスが取れている。

南アフリカ：供給量は依然としてひどく低く、価格は120%高い

熱帯サイクロン「フレディ」(モザンビークと南アフリカ北東部で2月と3月の5週間にわたって活発であった記録的な熱帯暴風雨)と2か月前の降霜の結果として、ある業者はバナナの供給量は依然として「ひどく少ない」

と言ひ、経済的不調のため需要は依然として弱いままである。バナナの供給量は前年比でほぼ50%少なく、逆に価格はヨハネスブルグの青果物市場で11.60ランド(0.6ユーロ)/kgと120%高くなっている。地方のある業者は、町の市場で2級品の中型のバナナが18kg箱当たり約180ランド(9.5ユーロ)を得ていると言ひ、「来週は数量が回復するはずだが、おそらく大量のバナナが一度に出て市場を圧倒するだろう」と述べた。

インド：雨不足で不確実に

インドのバナナは、主要産地であるマハラシュトラ州の雨不足により、今後厳しく不確実な時期に向かっていく。祝日の時期が近づいているため、消費の増加により価格はすでに上昇し始めているほか、中東とペルシヤ湾岸諸国からの需要の増加により圧力が高まっている。これは、今シーズン栽培面積が40%増加したにもかかわらず起こっている。品質上の問題と重量不足が高品質品の輸出量を大幅に制限しているため、引き続き商品の確保が難しい。要約すると、今後数か月の見通しは、品質と数量確保の面でかなり厳しい。

中国：台風が国内生産を襲った

中国国内では広東省、広西チワン族自治区及び四川省でバナナを生産している。7月には台風4号(Talim)が広東省に上陸し、バナナ園は大きな被害を受けた。

中国のバナナ輸入は世界の輸入の10%を占めている。新興輸出国のベトナムとカンボジアからの供給が急速に増加しており、両国からの輸入量は合わせて前年比13%増の約80万トンとなっている。フィリピンからの供給量は減少した。中国のエクアドルからの輸入は、高い輸送費と東南アジア産バナナとの価格差が急激に開いていることから、パンデミックの発生以来減少している。一方、90%が中国向けであるカンボジアの輸出は、2023年上半期に前年比で25%近く急落した。カンボジアの気象条件がこの衰退を引き起こし、低価格のため生産者は他の作物の栽培に移行した。

北米：価格圧力が待ち構える

バナナの供給が増加している。現在、バナナはエクアドル、コスタリカ、ホンジュラス、グアテマラ、メキシコから来ており、すべての地域でエルニーニョ現象により生産量がわずかに増えている。同時に、需要は旺盛である。ただし、出回り量が多いためバナナの市場価格は低い。また、多くの小売業者は契約のシーズンに向かっていく。ある出荷業者は、「EUがバナナに導入している残留農薬テストを考えると、欧州に販売している多くの出荷業者は米国またはアジアの市場に出荷することを余儀なくされるだろう」と言う。

それは価格に下方圧力をかける可能性がある。しかし、生産者と出荷業者もコストの増加と戦い続けている。この業者は、「現在、中米のバナナ生産者は、人件費の大幅な上昇とドル安に直面している。ほとんどのバナナ生産国において、ドルの切り下げは、10～15%の所得の減少を意味する」と言う。ただし、ホンジュラスやグアテマラなどの一部のバナナ生産国は、通貨を米ドルに固定させており、同じ価格でバナナを提供し続けることが有利な立場にある。

エクアドル：2023年の最初の7か月間の輸出量が6.99%増加

2023年1～7月のエクアドルのバナナ輸出量は2億2,017万箱で、2022年の同時期より6.99%増加した。

ある販売・輸出業者は次のように説明する。「輸出の増加は3つの要因によるものである。冬により多くのバナナを出荷するエクアドルとは異なり、グアテマラ、コスタリカ、コロンビアなど米国へのバナナの主要供給国は、冬のバナナ出荷量が少ないため、最初の要因は出荷のダイナミクスである。実際、2023年の前半には、2022年の前半と比較して輸出可能な出荷量が約9.5%増加した。」

「第2に、輸送運賃の引き下げである。一部の仕向先で2倍、3倍に増加した(EU、米国、ロシアなどの世界市場で高インフレを引き起こした)前年とは異なり、すでに通常の水準にある。ただし、ロシアへの運賃は依然として高い。以上により、バナナの輸入コストが削減された。」

「最後に、エクアドルが輸出する有機バナナの大部分は米国向けであり、それがこの国へのバナナの輸出が増加している理由である。」

(一部省略・要約しました。)